

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101743		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム心の瞳		
所在地	岡山県岡山市中区海吉1465-1		
自己評価作成日	平成30年3月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390101743-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成30年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

津山市を拠点に複数の事業所を運営している当法人が、岡山市に初めて設立したのがグループホーム心の瞳であり、オープンから3年目を迎えた。当法人は津山市にて15年間立ち止まる事なく日々「真」のグループホームのあり方を研鑽している。グループホーム心の瞳も同法人内事業所として高い志を持っており、当法人が追求する「真」のグループホームのあり方に少しでも近づけるよう日々奮闘している。それぞれの感性を信じ、挑戦することに臆せず、常に利用者様を第一に考えている。自分達の事業所が誇れる様になる為には柔軟でたおやかな心の考え方を職員全員が持ち合わせる事に重点を置いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

H30年3月で開設4年目に入った「GH心の瞳」は、昨春秋頃に利用者が一気に入れ替わり、一時期、2階ユニットの半数以上に空きが出るといった事態に遭遇したが、その難局を乗り越え、現在は満床に近く、開設当初は重度の人が多かった2階も今の方が軽度で元気な人が多い。このホームの特長は、リビングで利用者と協働して作る昼食であり、今日も1階と2階ではメニューが異なるが、クロックが主菜のユニットでは野菜を切り、肉と混ぜて形を作り、衣にパン粉をつけて、油で揚げる。その一連の作業をエプロン・三角巾姿の利用者が手分けして職員と一緒にしている。一番驚いたのが、テーブルの上でクロックを油で揚げているのが利用者という事だった。もちろん職員が傍で見守ってはいるが、ここまでさせてくれるホームはそう多くはない。一人ひとりの実行機能能力を最大限に発揮してもらっている。今最も職員が取り組んでいる事は「接遇マナーの向上」と聞く。一人ひとりの意識の持ち方次第で、素晴らしいホームに変身できると思うので期待しています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念「3つの心」を朝の申し送り後に声に出して読み上げている。加えて3つの指針と職員宣言(毎日1つずつ)を唱和している。管理者及び職員はこの事業所の理念を大切に思っている。	理念である「心をみがき、心を育て、心で目に見る」の三つの心を基本とし、毎朝職員間で唱和して、特に見えていないところを見るように心がけている。新規職員もおり職員全員とはいかないが、リーダーには90%近く理念が浸透していると聞いている。	「三つの心」の理念が誇りと職員から聞いたが、理念は掲げる物であり、それを現場でどう実践しているのか？利用者の心を知る事も重要であり、言葉上でなく、利用者との「心の交流」について今一度考えてみたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお茶のみ会やオレンジカフェ(いずれの月も1回)への参加がほぼ定着し、盆踊り大会も毎年参加している。近くの中学校や児童養護施設との交流も図っている。特に中学校とは、夏のボランティア、職場体験、体育祭、文化祭、ギャラリー鑑賞と積極的に関わりを持っている。12月には初めてギャラリーへの出展を計画している。今後は小学生や幼稚園児との交流を図りたいと考えている。	町内の盆踊り大会に参加したり、公民館でのオレンジカフェへの参加、中学校の文化祭の見学に行く等、地域交流をしている。リビングに中学生の職場体験記(各生徒の手作り新聞)が展示しており、詳細で正直な感想が綴られていて面白い。開設以来、着々と地域交流の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ホームの行事で地域の方々に認知症について話す機会を設けている。中学校で開催された初回のオレンジカフェでは講師として招かれた。毎年中学生の職場体験の受け入れもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、ホームでの生活、行事、取り組みや、地域活動の様子を報告している。毎回手作りのお菓子を用意し、意見交換を行っている。この会議から地域の情報を得られることが多い。	地域包括、町内会長、民生・児童委員、愛育委員、家族、利用者等が参加して、定期的に会議を開催し、情報交換や意見交換をしている。詳細な議事録から参加者との質疑応答の内容、感想、提案等がよく分かり、意見や要望は運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎年市の集団指導に参加して介護サービスの適切な運用に努めている。運営推進会議には地域包括の職員の参加があり、情報交換をしている。	運営推進会議に地域包括の参加があるので、情報提供を受ける等、日頃から良い連携が出来ている。市の主催する実践者研修にも参加しており、内部研修をして他の職員に伝達講習をしている。市の担当者にも何かあれば、相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は建物内の鍵は開錠し、センサー等の設置もしていない。B棟の出入り口にインテリアに馴染む鈴を取り付けているものの(A棟はつけていない)、その音を頼りにせず、職員同士で各利用者の動きを把握し、敏感になるようにしている。夜間は施錠するが、門扉や玄関、出入り口は簡単に開くので、外に出たい欲求の強い人に注意している。	職員は身体拘束をしないケアを実践しており、身体拘束を必要とする人もいない。「身体拘束0宣言」をホームのマニュアルとしている。自宅が近くで、いつでも帰れるように荷作りしている人は、実際に無断で外出した事もあったが、自宅までのルートが分かっているので捜しやすいと聞いた。離設マニュアルも作成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でお互いの言動に注意し、少しでも虐待に繋がるような言動が感じられたら、上司に報告している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ出来ていないが、いずれは勉強会を開催したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者や家族が1名ずつ出席し、意見を聴取している。10月の体育の日には運動会と家族会を同時に開催し、意見交換を行った。面会に来る家族も多く、その都度話を伺うようにしている。	昨年からはじめた家族会が好評であり、今年度も第2回目を開催して家族間の交流と親睦を図った。敬老会や運動会にも家族の参加があり、面会時には積極的に意見や要望を聞くようにしている。毎年、利用者手書きの年賀状や暑中見舞いの絵手紙を出し「母が描いたんですか？」と喜びと驚きの声を聞いた事もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングとフロアミーティングで忌憚のない意見が出され、普段からも意見や提案を出しやすい雰囲気を作っている。全体ノートやフロアの申し送りノートで職員間の情報を共有している。また職員は「防災」「感染」「生活自立」「マニュアル」のいずれかの委員会に属しており、委員会を通じて業務改善に努めている。全体ミーティングには毎回津山より統括が参加し、法人全体の業務を束ねている。	代表の考えで教育部長(元看護師)を置き、医療と介護の視点から人材育成に当たっている。職員の年齢層も10代～70代と幅広く、男性職員3名、夜勤専従者が1名いる。職員間で業務に対するの振り返りや運営に関する改善点等を話し合い、現在「接遇マナー向上」に全員で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は津山市から岡山市へ移住し就業環境の整備を行う事に専念している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職は月に1回程度津山に赴き教育部長から管理職としての心得を指導されている。各職員もそれぞれの経験やレベルに応じた外部研修に参加し、全体ミーティングでの研修報告や伝達研修という形で他の職員に対しても学んだ知識を伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修への参加により、同業者と語らう機会があり、他の事業所の取り組みを伺うことができた。こうした研修の場を通じて同業者との交流を図っていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活環境に少しでも近づける様日々困っている事不安に思っている事を聞き、安心して頂ける様努めている。新しい入居者には「ご縁を大切に」と書いたカードと5円玉を贈っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも家族の思いをしっかり聞き取れる様、日々何かあれば連絡を取りながら信頼して頂ける様関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がその時必要としている支援が見極められる様に頑張っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂き、出来ない所をサポートして出来る様に支援する様に心がける事が当事業所のあり方である。さりげない声かけに努め、無理強いにならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に出来訪時の時間はゆっくり出来る様配慮し、来訪出来ない時も状態が分かる様毎月手紙と写真を送っている。暑中見舞いと年賀状は本人が作成したものを発送している。2か月に1度手作りの新聞を発送し、ホームでの暮らしの様子も伝えている。面会時には毎月のアルバムを見ながら会話するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親族が面会に来られた際にはゆっくりと話が出来る様配慮している。近所のスーパーや産直市場に買物に行った際には「ここにはよく来ていた」「前より広くなったね」といった声が聞かれる。	夫婦で入所、息子夫婦のお互いの母親同士、以前からの顔見知り同士等々、つながりの深い人間関係がここでも継続されているケースがあり、すでに馴染みの関係が出来ている人がいる。自宅が近い人や毎日夫が面会に来てくれる人もいて、気軽に面会しやすいような環境作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣席の利用者同士がお喋りを楽しんだり、お互いを労わっている様子がよく見られる。席も固定せず、いろいろな利用者と交流できるようにしている。年に3回両棟合同行事があり(花見、そうめん流し、餅つき)、演奏会等も両棟合同で楽しんでいる。関わりが難しい利用者には職員が間に入り孤立しない様にし、入居者同士のもめごとにも早く気づき対応する様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも家族からの相談があれば、相談や支援をしていこうと思っている。思い出のアルバムを贈ったり、ホームでの行事にお誘いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握に努め、気になることがあればすぐに職員同士で話をするようにしている。特にプラン見直しの時はしっかりと意見を出し合っている。	利用者の多くは、自分の思いや希望を言えるが、中には日中ずっと「アー、オー」等の大きな声を発している人もいる。そういう人に対しては言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしており、意思疎通が困難な方には、家族から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取り、入居前のケアマネジャー、看護添書等から情報を得て、職員全体で共有して行く様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、その日の行動、顔の表情等、日々現状の把握に努めている。様子がおかしい時には訪看・医師に連絡し指示をもらっている。できるようになったこと、できなくなったことについて職員同士で情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者と話し合い、意見を聞き、介護計画を作成するようにしている。但し、実施途中で現状に合致しなくなった場合、速やかに介護計画の見直しを行うことがあまりできていない。	本人・家族から聞き取った意向を基にして、職員間で話し合いながらケアプランを作成しているが、状態の変化があれば、その都度、現状に応じたプランになるように検討して、見直すように努めている。プランに対しての実施状況を毎日チェックし、遂行出来ているか否か、把握して6ヶ月毎に評価し、次回のプランにつなげている。	今は一人の介護支援専門員が両棟のケアプランを作成していると聞いているが、1階と2階のプランの本人意向欄の記述には明らかな違いが見られる。前任者の記録との事だが、本人から聞き取った最新の情報の中からニーズを拾い出し、意向に沿ったプランを作成して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は健康チェックシート・経過記録でまとめて見ることが出来る様にしている。日々の気づき等も送りノート等を利用し職員全員で共有し実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が変わればニーズも変わってくる。その時々ニーズに沿った支援方法を家族と相談しながら考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物はできるだけ地域のスーパーや産直市場を利用している。コーポの注文購入もしているが、利用者がチラシを見ながら欲しいものを注文することもある。不定期ながら「パンの日」と称して移動パン屋の訪問もある。また公共図書館から本やDVD,CDを借りて利用者に楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2度の主治医の往診がある。他科の受診が必要な場合には家族や職員が同行している。訪問歯科も利用している。	希望があれば従来のかかりつけ医に継続可能であるが、大半の人がホームの協力医が主治医であり、定期的な往診もある。訪問看護、訪問歯科も利用しており、本人・家族の希望があれば自由診療ではあるが訪問マッサージも利用出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護師が来ている。様子、状態を伝え情報を共有した上でアドバイスをもらい、看護師の指示により医師へ繋げるようにしている。特変時電話連絡をし必要に応じて来て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院の際には病院に情報提供を行う。入院中は面会に行き本人の状態を確認すると共に医師、看護師、相談員と共に早期退院に向けて話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨秋に初めての看取りを行った。看取り開始の際には医師、家族、職員による面談を行った。医師からの説明と家族の意向を踏まえ、ホームでの看取りに備えた。訪看からも看取りについてのパンフレットを頂いたり、協力的だった。職員一丸となって看取りを行い、よい勉強となった。課題も残ったので今後に生かしたい。	開設して初めての看取りを行ない、運営推進会議で看取りの状況を詳しく説明した。「ここで最期を」という家族の希望で医師、看護師の協力の下、家族も毎日泊まり込みをして最期に立ち会い見送った。職員にとっても全員初めての経験であり、いろいろ課題も残ったが、貴重な経験となった。今はターミナルの人はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。感染対策についても委員会メンバーによるマニュアルの見直しが行われている。昨年、今年とインフルエンザが発生し、感染対策をあらためた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年5月には一時避難場所まで移動する避難訓練を実施した。3月には連絡網を使った通報訓練を実施した。2月には地域の防災講演会に参加した。	地震想定避難訓練をして、利用者と一緒に指定避難場所である富山中学のテニスコートまで行き、避難ルートの確認も出来た。運営推進会議でも町内の人とホームとで、避難場所の話等、災害対策について話し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり人格が違うので、その方に合った対応を心がけている。呼称制度を設け、本人や家族に確認し、一番呼ばれたい呼び方で呼ぶようにしている。一部の入居者ではあるが、家族から昔の写真をお借りしており、その人の人生そのものへの関わりを深めていきたいと考えている。	職員の言葉遣いに対しての外部からの意見も踏まえて、接遇マナーの向上を図ろうと、腕章を作り各自意識を持つように取り組んでいる。トイレの棚のパットを入れる箱には、以前は持ち主の名前を書いていたが、今は居室番号に変更して自尊心やプライバシーに配慮していると聞いた。	言葉遣いや対応等の接遇チェックリストがあるそうだが、ロゴ入りの腕章まで作り、腕につけて仕事をするという姿勢に、「良くしよう、改善しよう」という意気込みを感じる。職員一人ひとりの意識の持ち方次第と思う。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらからの押し付けにならず、本人の思いや希望を表し、自己決定出来るよう対応している。ドリンクタイムではメニュー表から飲みたい物を選んでもらうこともある。特に本人の誕生日を最も大切なものと位置づけ、本人のお好きなものを召し上がっていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合ったペースは大事にしている。その時々によっても違うのでその時の様子、表情には気を付けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の修理、ボタン付け等出来る方には自分でしてもらっている。その日に着たい洋服も選んで頂いている。行事によっては化粧やネイルをしたり、アクセサリーを身に着けたり、雰囲気盛り上げるようにしている。散髪は2ヶ月に1度利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感(夏は流しそうめん、冬は鍋)や手作りにこだわり、ほぼ毎日利用者が調理や配膳に関わっている。利用者と一緒に料理本を見ながらメニュー会議を行ったり、利用者同行で買物もしている。、ホームに帰ってから食材を陳列し、旬の野菜、形や珍しい種類の野菜を見て買物に行けなかった利用者も楽しめるようにしている。お菓子作りやパン作りも行っている。出前も楽しみにしている。	1・2階共下拵えから調理まで、利用者と職員が総出で作る昼食の日であり、材料切りから始まり、パン粉をつけたコロッケをテーブルの上で油で揚げるのも利用者の役目。こんがり揚げ上がった熱々のコロッケを皆で美味しく頂いた。1階は手作り餃子だった。「シルバー料理教室」のような賑いで、それぞれに役割分担があり、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分制限や糖尿病のある方、体重増加に注意している方等に配慮した食事を提供している。水分量もあまり飲めない方には回数を増やしたり、甘い水分に変えたりなどして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い手伝いを必要とされる方は手伝っている。居室の洗面を使用する方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し対応をしている。その人に合ったパットやパンツの種類を検討し、日中と夜間で異なる対応をしている人もいる。排泄に関してはほぼ自立している方への関与についてはプライバシーを尊重するように気を付けている。	排泄が自立で布パンツで過ごしている人は数名。紙パンツで退院してもホームの生活に戻ると布パンツに改善する例もあれば、布パンツの人が排泄の失敗を自覚して自分から職員に相談して紙パンツにした例もあると聞く。定時又はその時々状況に応じて声かけ、トイレ誘導をして自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が摂れていない方にはこまめに声かけ好みの飲み物等を提供するなどして工夫している。運動不足の方には廊下等歩いて頂いたりお腹マッサージをする様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を月・水・金と入浴日としている。断る方は清拭・足浴で対応し、声かけやタイミングを工夫しながら、出来るだけ入浴して頂けるよう努力している。入浴を楽しんでもらうために入浴剤の使用したり、花風呂、しょうぶ湯、ゆず湯等のイベントも行っている。	浴槽に入れる人が多いが、シャワー浴に足浴も数名。1・2階で浴槽の色(ピンク・ブルー)が違うのも面白い。入浴拒否の激しい人の中には、穏やかな午前中の時間帯に入浴介助する事を職員で統一している例もある。好きな入浴剤を本人に選んでもらったり、冬至には柚子湯をして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は自分のお好きな時間に帰って休んでもらっている。日中も休みたい方には居室で休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は変わったらすぐにわかるように記録し職員全員が共有できるようにしている。与薬もれには注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・家族の話などから好きな事を把握し少しでも楽しんで頂ける様支援をしている。職員は日々の生活の中で利用者の能力に見合った活動を提案し、誰もが役割を持てるようにしている。例えば書道が得意だった方には行事の予定や歌詞等を書いてもらっている。余暇の楽しみとしてテレビ体操やいろはかるた、トランプ、オセロ等のゲーム、塗り絵等を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添えないこともあるが散歩、買い物など好きな方には行ってもらっている。各棟での月1回の外出が定着しており、2台の車で乗り合わせて、外食や季節の花を楽しんでいる。春や秋の気候のよい季節は弁当を作って出かけることが多く、それも楽しみになっている。	行楽の季節の外出では自然の景色や草花を楽しんだり、日常的な外出支援にも力を入れている。利用者の「〇〇が欲しい」というリクエストに応じて一緒に近くのスーパーへ買い物、ドライブ、外食等、希望に添った個別の外出支援もしている。天気の良い日の散歩は気分転換になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得て、いつも持ち歩く鞆の中に僅かな金銭を所持する入居者がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が可能なところであれば、いつでも出来る様対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて絵やぬいぐるみを掛け替え、懐メロだけではなく職員が選んだ最新のポピュラー音楽やヒーリング音楽を流し、アロマディフューザーも設置している。五感を通じて、居心地の良い空間作りを心掛けている。天気の良い日は庭やベランダでお茶や食事を楽しんでいる。浴室やトイレの床は和風のしつらえを施している。	1・2階ともリビングは広く明るい色調で清潔感があり、調度品や雰囲気は異なるが、季節感を感じさせる展示をしている。ベランダから広がる景色にも開放感があり、天気の良い日は日光浴や外気浴が楽しめる。利用者も参加する園芸福祉活動が活発で、敷地内にある菜園や花壇等の手入れが行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のテーブルにつく時には気の合う人、合わない人を見極め本人の意見も聞きながら対応している。ソファに座るのが好きな人もいれば、テーブル席で隣席の人とおしゃべりに興じる人もいる。西側に設置しているソファも憩いの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ってきてくださるよう入居時にはお話をする。壁紙は各居室で異なる仕様となっており、入居者の目を楽しませている。	パッチワークが趣味の人の居室には大きな手作り作品が飾っており、仏壇を持ち込んで、水を替え手を合わせるのを日課にしている人もいる。それぞれ今まで使っていた物、家具、化粧品類、写真等を持ち込み、自分の好きなようにレイアウトして、居心地の良い居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には配慮している。トイレ・浴室などもわかりやすくはしている。できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		